



# EF EPI

EF 英語能力指数

# EF EPI

EF 英語能力指数

# EFSET

EF英語標準テスト

[www.efset.org](http://www.efset.org)

お問い合わせ  
[www.ef.com/epi](http://www.ef.com/epi)

Copyright © 2016 EF Education First Ltd. All Rights Reserved

# 2016

[www.ef.com/epi](http://www.ef.com/epi)



## 目次

---

- 04 エクゼクティブ・サマリー
- 06 EF EPI 2016 ランキング
- 08 EF EPI 能力レベル
- 10 英語と経済、生活の質
- 12 英語とイノベーション
- 14 英語とテクノロジー
- 17 地域別トレンド
- 18 ヨーロッパ
- 22 アジア
- 26 中南米
- 30 中東・北アメリカ
- 35 結論
- 36 付録A: この指標について
- 38 付録B: EF EPI 各国スコア
- 40 付録C: CEFR レベルと Can-Do 評価
- 41 付録D: 参考資料
- 42 EFSET: 言語評価のイノベーション



## エグゼクティブ・サマリー

幹部から企業家、プログラマーから公務員まで、ほぼあらゆる専門家が英語を習得することによって豊富なリソースやチャンスを得ることができます。統合が当たり前となっている世界において、多様性が増す様々なシチュエーションの中で、英語を異文化コミュニケーションの媒介とする人々が増えています。識字能力の他に、これ程までに多くの人々の効率や収益力を高める可能性を秘めたスキルはありません。グローバル経済における英語の影響力は明白です。

過去10年間にわたって、EF Education First (EF)は世界中の何百万人もの成人の英語能力テストを実施してきました。EFは成人の英語能力を経年的に計測・追跡する世界規模のベンチマークである、EF 英語能力指数 (EF EPI)を毎年公開しています。EF EPIは現在の世界における英語の戦略的な重要性についての議論をさらに深めます。

このEF EPI第6版では、2015年に当社の英語テストを受験した950,000人を超える成人のデータを基に72の国と領域のランキングを行っています。レポートの最初のセクションでは、収益力、イノベーション、接続性などを含む、様々な経済指標および社会指標と英語の間にある関係性に焦点をあてます。第二セクションでは、世界の4つの地域、ヨーロッパ、アジア、中南米、中東・北アフリカ (MENA) における英語の位置づけを検証し、これらの地域に含まれる国々が英会話能力を有した人材を育成し成功を収める過程において直面する困難と契機について検討します。

今年の注目ポイントは次の通りです:

- 英語は個人および国家レベルにおける経済競争力の要です。より高い英語能力は、より高い収入、より良い生活の質、よりダイナミックなビジネス環境、より大きな接続性、より多くのイノベーションと相互関係があります。
- 英語能力スキルの幅が過去最高の開きを見せています。アジアおよびヨーロッパでは各能力レベルに少なくとも1ヶ国がランクインしています。
- 今年の指標で上位5位を独占した北ヨーロッパの国々が含まれるヨーロッパの英語能力が他と大差を付けて世界一となっています。

- 今回初めて、アジアの国であるシンガポールが最も高い英語レベルにランクインしています。マレーシアおよびフィリピンも世界上位15位にランクインしています。

- わずかな下降ではありますが、中南米は昨年より平均能力レベルが下がった唯一の地域です。

- 中東・北アフリカの国々は一様に最も低い能力レベルにランクインしており、MENA 地域のほとんどの国で英語能力は向上していません。

- ほぼ全ての参加国および年齢グループにおいて女性の英会話能力が男性より高くなっています。この傾向は過去全てのEF EPIを通して一貫しています。

- 全国的トレンドが著しく異なる国もありますが、世界的に見ると18~25歳の若年成人の英語能力が最も高くなっています。

# EF EPI 2016 ランキング

- 能力レベル
- 非常に高い
  - 高い
  - 標準的
  - 低い
  - 非常に低い

## 非常に高い英語能力

01	オランダ	72.16
02	デンマーク	71.15
03	スウェーデン	70.81
04	ノルウェー	68.54
05	フィンランド	66.61
06	シンガポール	63.52
07	ルクセンブルグ	63.20

## 高い英語能力

08	オーストリア	62.13
09	ドイツ	61.58
10	ポーランド	61.49
11	ベルギー	60.90
12	マレーシア	60.70
13	フィリピン	60.33
14	スイス	60.17
15	ポルトガル	59.68
16	チェコ共和国	59.09
17	セルビア	59.07
18	ハンガリー	58.72
19	アルゼンチン	58.40
20	ルーマニア	58.14

## 標準的な英語能力

21	スロバキア	57.34
22	インド	57.30
23	ドミニカ共和国	57.24
24	ブルガリア	56.79
25	スペイン	56.66
26	ボスニア・ヘルツェゴビナ	56.17
27	韓国	54.87
28	イタリア	54.63
29	フランス	54.33
30	香港	54.29
31	ベトナム	54.06
32	インドネシア	52.94
33	台湾	52.82

## 低い英語能力

34	ロシア	52.32
35	日本	51.69
36	ウルグアイ	51.63
37	マカオ	51.36
38	コスタリカ	51.35
39	中国	50.94
40	ブラジル	50.66
41	ウクライナ	50.62
42	チリ	50.10
43	メキシコ	49.88
44	モロッコ	49.86
45	ペルー	49.83
46	アラブ首長国連邦	49.81
47	エクアドル	49.13
48	パキスタン	48.78

## 非常に低い英語能力

49	コロンビア	48.41
50	パナマ	48.08
51	トルコ	47.89
52	チュニジア	47.70
53	グアテマラ	47.64
54	カザフスタン	47.42
55	エジプト	47.32
56	タイ	47.21
57	アゼルバイジャン	46.90
58	スリランカ	46.58
59	カタール	46.57
60	ベネズエラ	46.53
61	イラン	46.38
62	ヨルダン	45.85
63	エルサルバドル	43.83
64	オマーン	43.44
65	クウェート	42.98
66	モンゴル	42.77
67	アルジェリア	41.60
68	サウジアラビア	40.91
69	カンボジア	39.48
70	ラオス	38.45
71	リビア	37.82
72	イラク	37.65



# EF EPI 能力レベル

EF英語能力指数は、調査に参加した国と領域を英語能力が「非常に高い」から「非常に低い」までの5段階にグループ分けしています。能力別グループに分けることで、どの国が同等の英語能力を持っているか認識でき、また近隣諸国との比較も可能になります。次のページでは、各能力レベルにおいて個人がどのようなタスクを行うことができるかを示すタスク例の一覧をご覧ください。タスクは包括的に選択されたものではありませんが、レベル間においてどのように英語スキルが向上していくかを理解するための参考資料としてお役立てください。

各国の能力レベルは、その国内にいる「平均的な」受験者のレベル単純に示唆するものではありませんのでご注意ください。EF EPIは国と領域の比較を行うことを目的としており、個々の受験者の得意分野や不得意分野については、分析の対象からはずす必要があるためです。

## EF EPI 能力レベルについて

EF EPI 能力レベルを見ることによって、同様のスキルレベルを持つ国々の特定や、地域内および地域間での比較が簡単にできるようになります。各能力レベルに記載されているタスクは、各レベルにおいて個人が実行できるタスク例を示しています。各レベルにおける上位3ヶ国が一覧に記載されています。EF EPIは英語を母国語としない国と領域のみを調査の対象としています。

能力レベル	タスク例
<b>非常に高い英語能力</b> オランダ デンマーク スウェーデン	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 社会生活の場面で正しい意味合いを持たせた適切な言語を使用できる</li> <li>✓ 高度な文章を簡単に読むことができる</li> <li>✓ 英語のネイティブスピーカーと契約交渉ができる</li> </ul>
<b>高い英語能力</b> オーストリア ドイツ ポーランド	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 職場でプレゼンを行っている</li> <li>✓ テレビ番組を理解できる</li> <li>✓ 新聞を読む</li> </ul>
<b>標準的な英語能力</b> スロバキア インド ドミニカ共和国	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 専門分野における会議に参加している</li> <li>✓ 歌の歌詞を理解することができる</li> <li>✓ 熟知した内容についてプロフェッショナルなメールを書くことができる</li> </ul>
<b>低い英語能力</b> ロシア 日本 ウルグアイ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 観光客として英語を話す国を旅することができる</li> <li>✓ 同僚とちょっとした会話ができる</li> <li>✓ 同僚からの簡単なメールを理解することができる</li> </ul>
<b>非常に低い英語能力</b> コロンビア パナマ トルコ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 簡単な自己紹介(名前、年齢、出身国)ができる</li> <li>✓ 簡単な合図を理解できる</li> <li>✓ 海外からの訪問者に基本的な指示をすることができる</li> </ul>

# 英語と経済、生活の質

## 変わりゆく英語の役割

英語は大英帝国の下で国際貿易および外交の言語として広まった後、戦後アメリカの経済発展によってさらに広まりました。フランス語を話すことが高い教育を受けた上流階級の象徴とされていた国々でも、英語がそれに代わっていきました。

国際化や都市化、さらにインターネットの普及により、英語の役割はここ20年間で大きく変化しました。現在では英語能力はエリートの特徴ではなく、米国や英国との結びつきも希薄になってきています。それよりもむしろ、英語は世界的に全ての人材に求められる基本的な能力となりつつあり、それはちょうど知識階級の特権だった識字能力が、過去200年で教育を受けた市民なら誰もが持つ能力となったのと同じ感覚といえます。英語は機会を作り出し、雇用適正を決定付け、視野を広げます。

## 好循環

英語能力と一人当たりの国民純所得(グラフA)には好循環の相互作用があります。英語能力の向上によって給与が上がり、政府や個人による英語トレーニングへの投資が増えます。多くの国々では、若年層における英語能力の高さと失業率の低さに相関関係があります。このことから分かるように、英語は国家の経済成長の鍵なのです。

## 英語でビジネスがしやすくなる

海外投資家や貿易を引き付け、企業家の成長を促したい国家や企業は、企業にやさしい環境づくりにおける英語の重要性を認識しています。英語を使用しない国々に本社のある企業(楽天、ルノー、サムスンなど)では、社内公用語として英語を採用する企業が増えています。

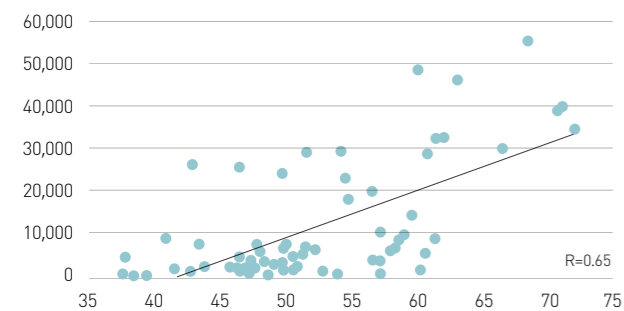
人間開発指数(グラフB)など、生活の質を表す指標はEF EPIと比例しています。人間開発指数は教育的達成、平均寿命、識字能力、生活水準が考慮されています。「低い」または「標準的」な英語能力でありながら、高水準の成長を遂げている国も少数ながらあります。しかしながら、「高い」または「非常に高い」英語能力を有する全ての国がHDIによって『人間開発の達成度が非常に高い』と評価されています。

## 必要不可欠なスキルとしての英語

英語が今日におけるコアスキルである証拠がこのレポート内には示されています。以上を鑑みても、英語は国語や数学と同等のレベルで教育、試験されるべきでしょう。過去20年間で英語の重要性が増したことを考慮すると、現在の子供たちが社会人になる時には実務に役立つ優れた言語力が今以上に必要不可欠となっているでしょう。

グラフA: 英語と収入

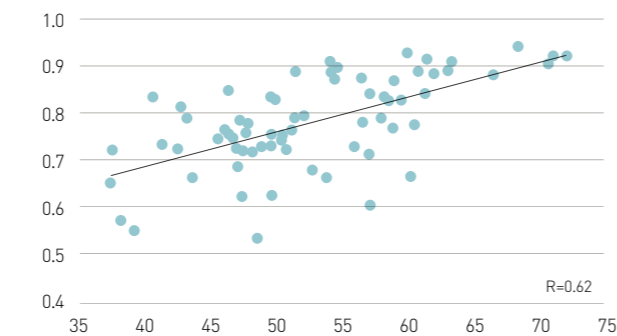
一人当たりの国民純所得(2005年実質米ドル)



EF EPIスコア  
参照: 世界銀行(2014)

グラフB: 英語と生活の質

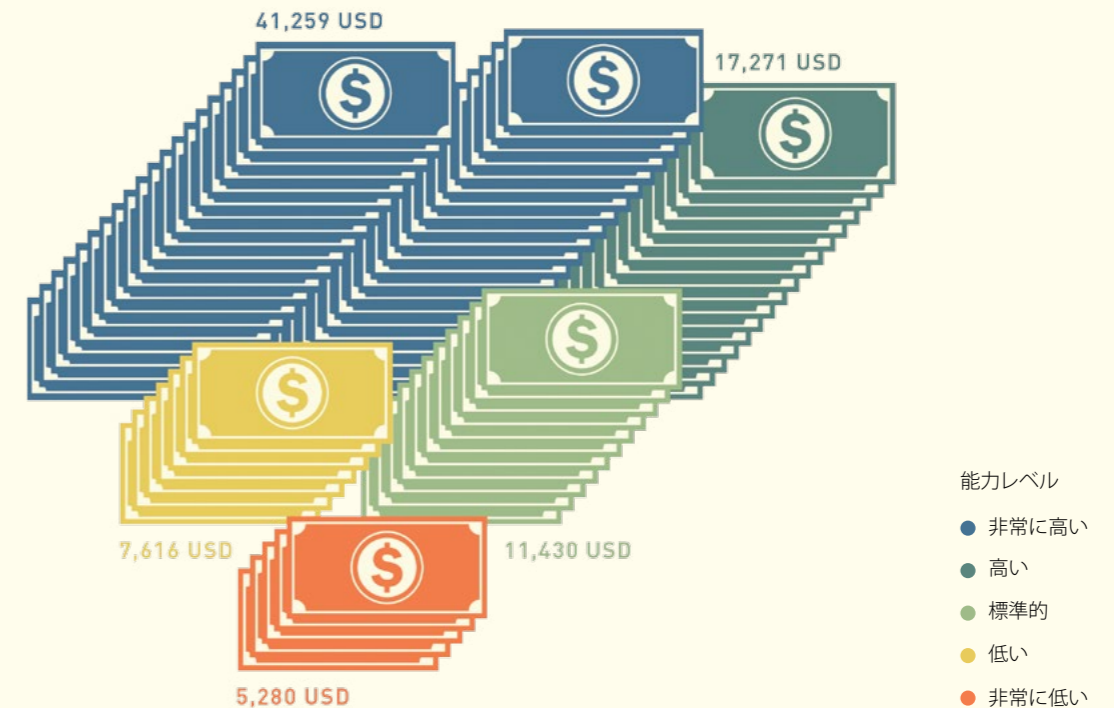
人間開発指数(HDI)



EF EPIスコア  
参照: 国連人間開発報告書(2015)

## 個人の収益力と英語

この図表では、各EF EPI能力レベルに含まれる国々の一人当たりの国民純所得の平均を示しています。このデータは、英語スキルと個人の収益力の間にある明白な関係性を示しています。



- 能力レベル
- 非常に高い
  - 高い
  - 標準的
  - 低い
  - 非常に低い

参照: 世界銀行(2014)



# 英語とイノベーション

多国籍企業に共通する困難の一つに「種々多様な文化背景を持つ従業員たちの結びつきを築くこと」があります。英語は国や文化が異なる従業員たちを結びつける架け橋となり、イノベーションのためのネットワークを紡ぎ出しているのです。

## 科学とテクノロジーにおける英語の極めて重要な役割

情報技術セクターは国際的なコミュニケーションに依存しています。2014年にIEEEが行った調査では、世界のプログラム言語の上位10位すべてが英語をベースとした言語でした。その中でも、PYTHONとRUBYの2言語は英語を母国語としない開発者によって作成されています。

より高い英語スキルを持つ国では、最先端技術の輸出をより多く行う傾向があり(グラフC)、航空宇宙、コンピュータ、製薬、科学機器、電気機械などの分野で研究と開発に多額の投資を行う傾向があります。

英語は科学とエンジニアリングにとって必要不可欠でもあります。高い英語能力を持つ国々では、一人当たりの研究者や技術者の数が多くっており、研究開発のための支出も大きくなっています(グラフD)。

## 英語はアイデアを広げる

英語能力の高い国々がイノベーション部門で成功するには、明白な理由があります。イノベーターたちは英語スキルを活用して、重要な科学研究について読み、国際的な提携関係を築き、海外から才能豊かな人材を招き入れ、学会に参加することができます。英語能力は、イノベーターが独自の仕事を生み出すために必要な、アイデアと人を結びつける接点を増やし、広げるのです。

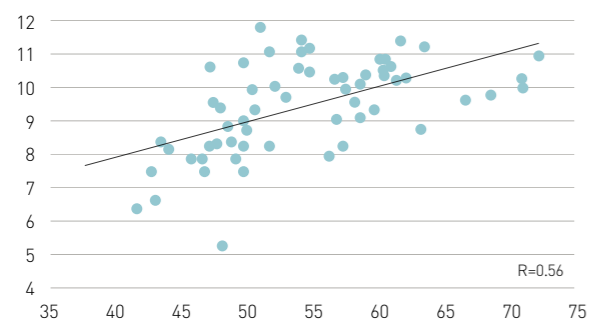
他国と大差をつけ、毎年米国の研究者による学術論文が最も多く発表されており、発表数では第二位の中国に次いで英国が第三位となっています。しかしながら、発表数の多さにもかかわらず、米国の30%、英国の8%に比

べて中国の研究は全世界の学術論文で4%しか引用されていません。これは、中国の研究と世界的な知識経済の一体化が進んでいないことを意味しています。

英語能力の低い国々は、国際的な共同研究のレベルも通常低くなっています。2015年には、デンマーク、フィンランド、オランダ、シンガポール、スウェーデンで発表された学術論文の半分以上が国際的な共同研究者の論文を引用していたのに対し、中国で発表された学術論文で国際的な共同研究者の論文を引用していたのは21%だけでした。このように、他者が発表した研究内容にアクセスする能力がなく、国際的なイノベーションに貢献する能力がないことは、英語スキルが低い国々にとって深刻な問題です。

グラフC: 英語と最先端技術の輸出

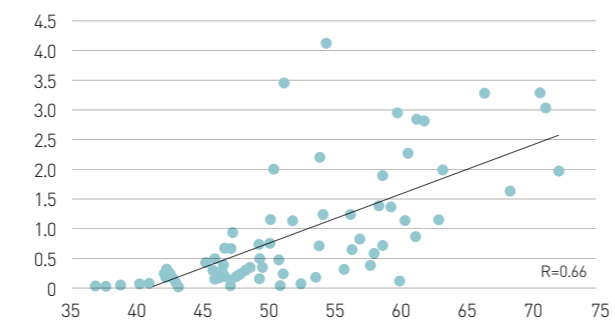
最先端技術の輸出(対数尺度)



EF EPI スコア  
参照: 世界銀行 (2014)

グラフD: 英語とイノベーション支出

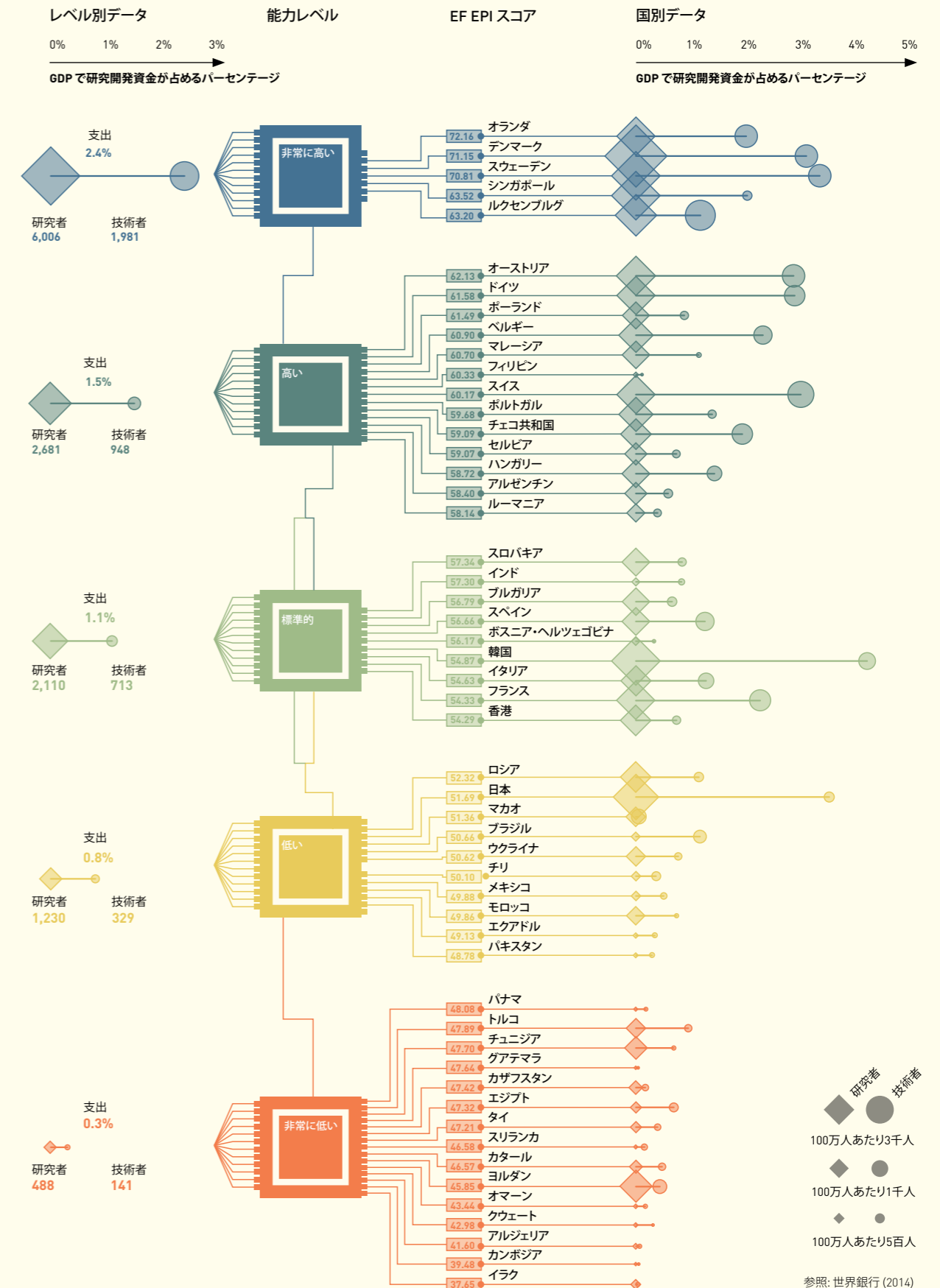
研究開発資金(GDPに占めるパーセンテージ)



EF EPI スコア  
参照: 世界銀行 (2014)

## 英語はイノベーションを解き放つ鍵

英語は、世界銀行の世界開発指標が示す数々のイノベーション評価と相関性があり、英語がイノベーションにとって重要な要因であることが示唆されています。この図表では、英語能力の高い国々が研究開発により多額の支出を行っており、人口一人当たりにおける研究者や技術者の数が多くなっていることが示されています。



# 英語とテクノロジー

インターネットの普及とモバイルテクノロジー  
英語能力の高い国々では、インターネットの普及率も高くなっています。英語能力は各国におけるインターネット利用者数と比例しています。さらに、Groupe Speciale Mobile Association (GSMA) と Mozilla Foundation は、2017 年までに発展途上国でモバイルブロードバンド接続が 30 億人のユーザーに使用されるようになり、その半数がスマートフォン接続になると推定しています。

モバイルテクノロジーとインターネットの普及によって、世界中にいる 20 億人の英語学習者はオンライン学習ツールにアクセスし、より個人化され、よりインタラクティブで、アクセスしやすくなった英語学習ができるようになりました。スマートフォンやタブレット向けの言語学習商品によって、ユーザーはいつでもどこからでも学習することができるようになりました。このような商品の多くが、従来の語学教室よりも低額で利用でき、中には無料で利用できる商品もあります。この変化によって、クラスを受ける時間、リソース、機会がなかった学習者たちも、言語学習を受けることができるようになりました。

## テクノロジーが英語教室を変える

従来の対面式のクラスよりも、対面式とオンライン学習を組み合わせた時の方が学習者の成績が上がるのが研究者によって明らかにされています。教材や学校のインフラ設備が向上する中、教育者たちはクラス内で適切なテクノロジーを使用する経験を積んでおり、この変化がもたらす恩恵は今後も増す一方でであると予測されます。

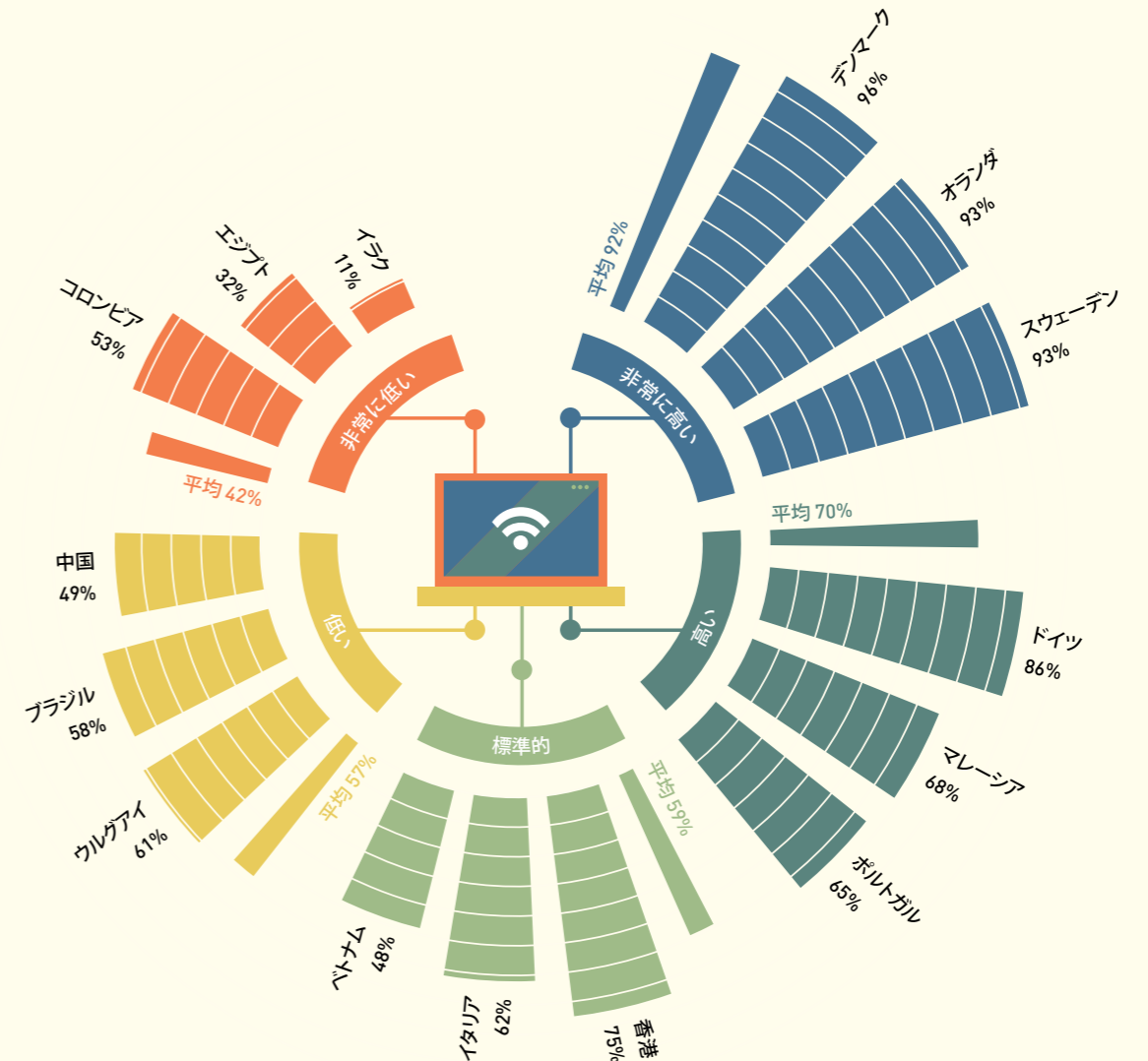
次の6つの方法でテクノロジーが語学教室を変えます:

- **生徒の訓練をサポートすることで、教師の時間を最大限に活用できるようになります。** 教師の時間はクラスにとって最も価値があり、最も限りあるリソースです。教師の時間を有効活用するため、教師は複数の生徒にデジタル機器を使って自主学習をしてもらいながら、他の少数グループの生徒の指導をすることができます。
- **フィードバックを瞬時に受け取ることができます。** 生徒と教師は、学習システムから日々の学習活動についてのフィードバックを瞬時に受け取ることができ、教師は生徒の成績を評価する時間を節約し、生徒の個々のスキルが時間と共にどのように向上したかを追跡することができます。
- **パーソナライズされた学習。** 大規模クラスで教鞭をとる教師が直面する最大の困難は、英語能力、やる気、好みの学習スタイルが異なる生徒に対して、各生徒に合わせた指導を行うことです。テクノロジーによって、教師が生徒それぞれに異なる課題を与え、各生徒の進捗を追跡できるようになり、クラスをより効果的に実施することができます。システムの中には、生徒が苦手としているトピックに対して追加課題を与えるなど、生徒の合わせた学習活動を提供できるものもあり、生徒は必要に応じて学習することができます。

- **より豊かなクラス内交流をサポートします。** 例えば、生徒からの返答を集計して表示する投票ツールは、生徒がクラスディスカッションに参加するのを促し、ディスカッションを盛り上げます。ゲームのような順位表は生徒のやる気を引き出し、友好的な雰囲気の中で競争させることができます。クラス内でのライブメッセージや自宅からクラスブログへの書き込みによって、クラス内で発言するのを嫌がる生徒たちも、安心してディスカッションに参加できる場所を提供することができます。
- **学習障害のある生徒をサポートします。** 度々見過ごされてきましたが、クラス内でテクノロジーを使う利点には、テキスト読み上げ、コントラスト強調、文字の大きさの変更などの機能を使って、障害のある生徒により使いやすい教材を提供できることがあります。
- **最新の教材および本物の英語に簡単にアクセスすることができます。** 本とは違い、電子コンテンツは絶え間なく継続的に見直すことができ、最新の状態を保つことができます。例えば、商品の中には現在起きているイベントについての新しいレッスンを毎日提供するものもあり、これは本では実現できなかったことです。テクノロジーは生徒と英語のネイティブスピーカーや他の学習者たちと結びつけ、生徒は否応なく唯一の共通言語である英語を使ってコミュニケーションをとらなければなりません。

## 英語とインターネット接続

インターネット上にあるコンテンツの 50% 以上が英語で書かれています。英語能力は各国におけるインターネット利用者数と比例しています ( $r=0.67$ )。この図表では、各 EF EPI 能力レベルに含まれる国々のインターネット普及率の平均を示しています。ここで示されているインターネット普及率とは、国内または能力レベル内に含まれる人々の中で、インターネットへアクセスできる人の割合を示したものです。



参照: 世界銀行 (2014)



## 地域別トレンド

---

次のセクションでは、世界の4つの地域、ヨーロッパ、アジア、中南米、中東および北アフリカ(MENA)における英語の位置づけを検証します。

地域別トレンドでは、各地域に含まれる国々が英語能力のある人材育成に取り組む中で直面する様々な困難と契機について議論しています。男女間および世代間におけるトレンドの分析も行い、各地域の歴史のおよび経済的背景を反映した人口統計学的属性による差に注目しています。

その他の国別レベルデータは [www.ef.com/epi](http://www.ef.com/epi) からご覧いただけます。

# ヨーロッパ



## 多言語使用を推進するヨーロッパが世界を牽引

外国語教育は欧州連合の多言語使用ポリシーの核となるもので、ヨーロッパ内での移動の促進や、ヨーロッパ大陸の豊かな言語多様性の保護を目的としています。

ヨーロッパの英語能力は世界一高くなり、今年の指標では上位10位中9ヶ国をヨーロッパの国々が占めています。しかしながら、今年の結果では英語能力の顕著な地域差も示されています。このような能力格差は国家の教育システムの違いに加え、日常生活における英語の使用頻度の違いとも関係しています。

**オランダと北欧諸国は上位を維持**  
非常に高い能力レベルのグループは、またしてもオランダと北欧諸国の4ヶ国(デンマーク、フィンランド、ノルウェー、スウェーデン)の顔ぶれとなりました。フィンランドが7位となった2013年のレポートを除くEF EPIの全6版において、この5ヶ国が上位5位を独占しており、英語教育で世界を牽引しています。

これらの国々では、英語能力は主に公教育によって確保されており、40年以上に渡って、初等学校から中等学校までの義務教育に英語が含まれています。これらの国々における外国語教育指針では、文法の習得よりもコミュニケーションに焦点が当てられています。

しかしながら、北欧が常に高い能力レベルであることの理由は学校だけで説明できるものではありません。この地域における日常生活は、吹き替えなしの英語メディアが常に溢れており、特にテレビ番組でその傾向が顕著なのが特徴です。英語がこれだけ身近にあることで、英語の公教育を受ける前の小さな子供でさえ、英語の語彙が増え、英語に対する理解力、文章作成や会話の能力が高まります。

すでに英語能力の高いこれらの国々ですが、向上の余地はまだ残っています。長期的に見ると、留学機会の制限や経済競争力の弱体化につながるスカンジナビア人学生の学術英語および英語文章の不十分な運用能力に対する取り組みが最近の改革によって開始されています。

**多言語使用による指導の成功**  
中欧のいくつかの国々では、少しずつではありますが、過去10年で英語能力が着実に向上しています。ベルギー、ドイツ、ポーランド、スイスなどの国々は、国家教育基準や外国語指導の質を向上させることを目的としたカリキュラムを設けるなど、多大な努力を注いでいます。これらの国々の良好な結果は、カリキュラム内で生徒に2つ以上の外国語を学ばせ、英語を必須外国語とする教育ポリシーによってもたらされています。

ベルギーやスイスのように、多言語が公用語となっている国々では、公用語の教育と共に高レベルの英語教育を行うことができおり、生徒が複数の外国語を習得できることを示しています。

チェコ共和国、ハンガリー、セルビアは、ヨーロッパの他国に比べて教育に対する公的支出は依然として低いまですが、これら3ヶ国すべてが卓越した英語能力レベルを誇っています。これらの国々では、外国語スキルが国際統合において必要不可欠であるという考えや、知識集約型経済における英語とその他の外国語の重要性を強調する教育システムが広く受け入れられています。

**南北分裂の神話**  
言語の国かどうかで分けると、より巧みに分けることができます。ヨーロッパでロマンス語を第一の公用語とする、ヨーロッパ経済の3大国家であるフランス、イタリア、スペインはヨーロッパ平均と同じか、それ以下の英語能力となっています。イタリアとスペインは去年と比べると安定した順位となっており、過去8年でわずかに向上しました。これらの国々で最近実施された改革では、学校教育において英語を義務化し、コミュニケーションを重視した教育方法を採用しましたが、英語能力の向上は現在のところわずかでです。

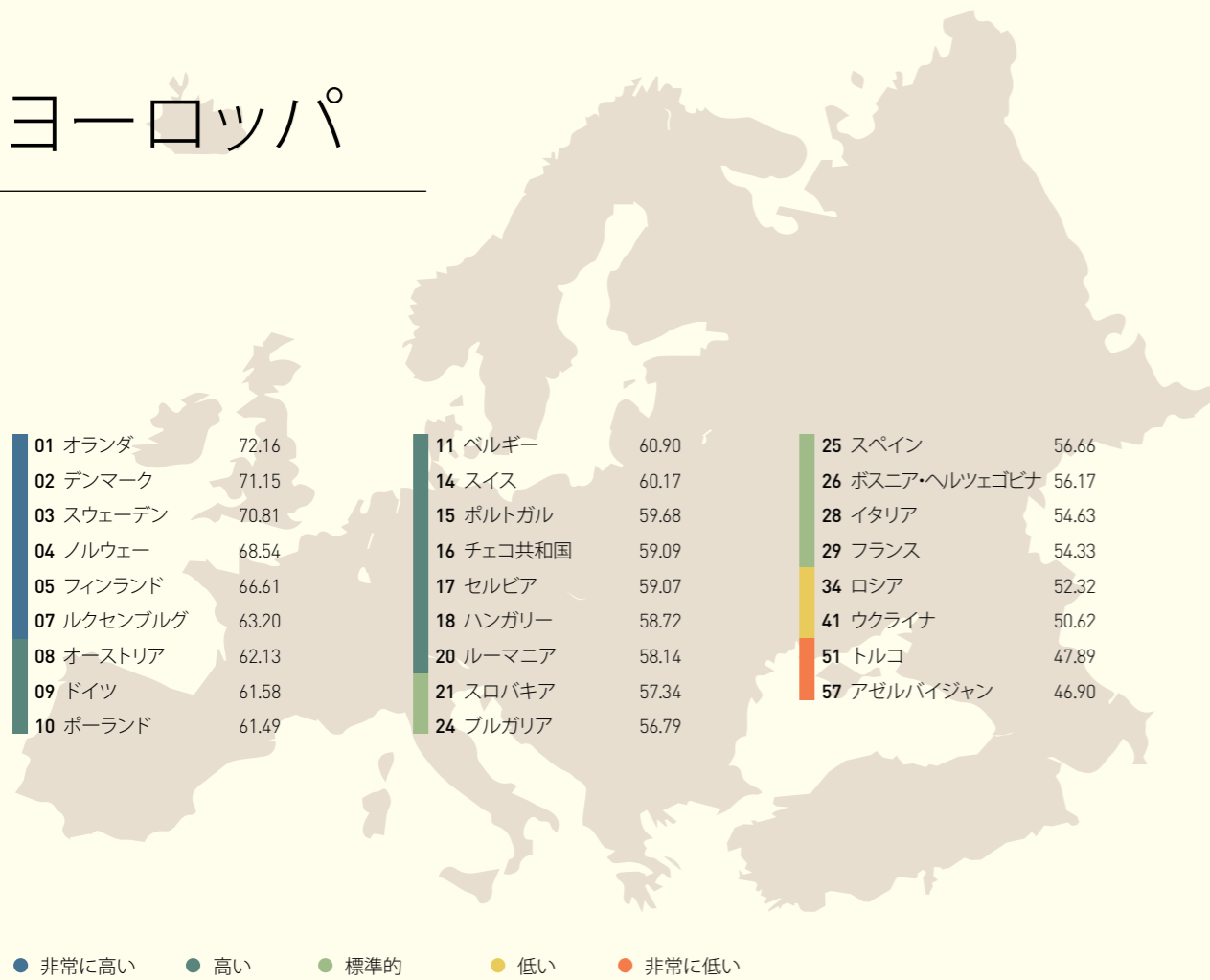
フランスでは、能力レベルの向上が長い間予測されてきたにもかかわらず、ヨーロッパの近隣諸国から大きく後れを取っています。フランスの教育方法はコミュニケーションスキルの育成を主な目的としておらず、国民は日常生活でほとんど英語に触れる機会がありません。さらに、フランスでは「アメリカ化」の考え方が国内の外国語教育に対する議論に影響を与えており、感情的な国民性論によって教育について実用的な話し合いをすることが難しくなっています。今年見られた向上が今後も続き、フランスがヨーロッパ内の他国の能力レベルに近づくことができるかは、これからも見守る必要があります。

**ヨーロッパで最も能力の低い国々**  
アゼルバイジャン、ロシア、トルコの英語能力は昨年よりわずかに向上しましたが、これらの国々は未だヨーロッパの近隣諸国からは多く後れを取っています。欧州連合に入っていないこれらの国々では、未だにコミュニケーションよりも暗記することに重点をおいた英語指導が母国語を使って行われており、カリキュラムの標準化の遅れから弊害が出ています。しかしながら、過去数年で見られたスコア向上は、英語スキル向上のためにロシアとトルコが実践した国家努力が実を結び始めたことを示しています。

**結果**  
ヨーロッパの英語能力は、他の地域と比べて高い状態を維持しており、北欧および中欧は世界を牽引しています。ロマンス語を公用語とする国々はヨーロッパ平均またはそれ以下となっており、欧州連合との境にある国々はこの他のヨーロッパ諸国とは全く異なった能力レベルとなっています。今日の相互につながりの強い世界では、多言語使用が重要な役割を担っており、ヨーロッパの教育ポリシーが世界基準となっています。全ての取り組みが成功しているわけではありませんが、ポリシーによってヨーロッパの言語多様性を守りながらも、標準化と経済競争力を促進させています。



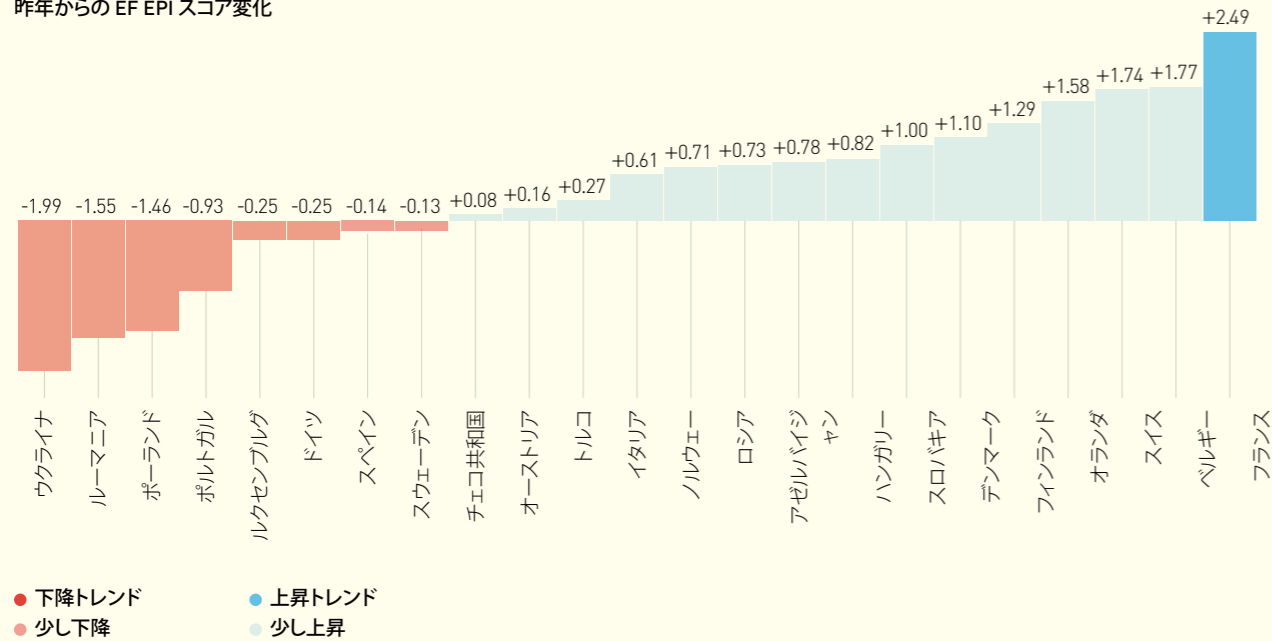
# ヨーロッパ



## EF EPIトレンド

ヨーロッパのほぼ全ての国々で、英語能力スコアの大きな変化(上昇・下降)はありません。フランスは今年群を抜いた向上を見せ、過去最高の EF EPI スコアで低い能力レベルから標準的な能力レベルへと上がりました。ポーランド、ルーマニア、ウクライナは最大の下降を見せています。

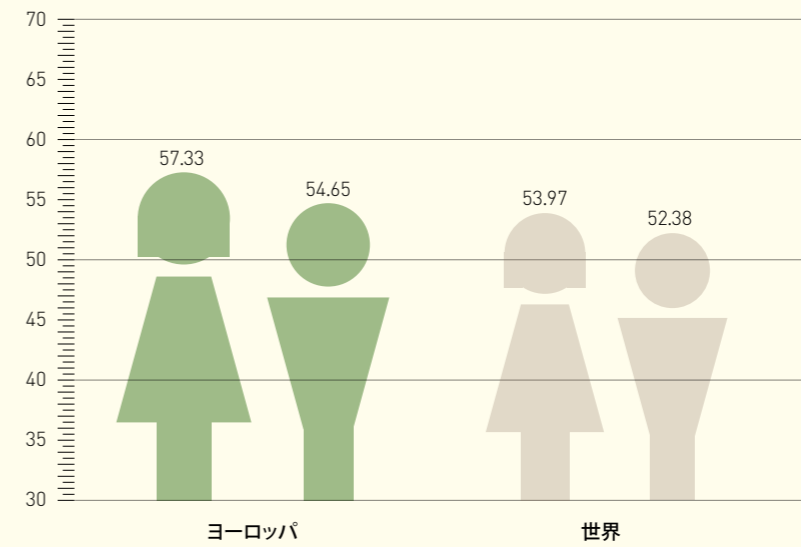
## 昨年からの EF EPI スコア変化



## 男女の差

ヨーロッパの男性と女性の平均スコアは世界平均を大幅に上回っています。世界的トレンドと同じく、ヨーロッパ人女性の能力レベルはヨーロッパ人男性よりも顕著に高くなっています。

## EF EPI スコア

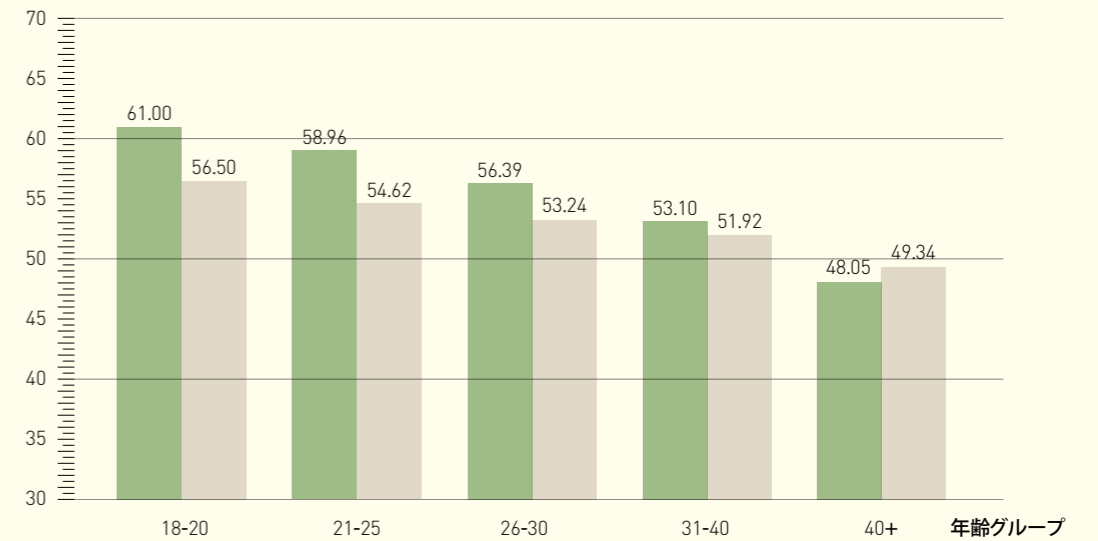


● ヨーロッパ  
● 世界

## 世代間の差

ヨーロッパの成人はどの地域よりもスキルレベルの幅が大きくなっています。平均的には、大学生の年代の生徒が高い能力レベルとなっていますが、40歳以上の成人は同世代グループの世界平均を下回っています。高齢世代のヨーロッパ人は現在の教育カリキュラムとは大きく異なる学校に通っており、その違いは能力レベルの大きな差として顕著に表れています。

## EF EPI スコア



● ヨーロッパ  
● 世界

# アジア



## 経済がアジアの英語学習の原動力となる

アジアでは、長い間英語が日々のコミュニケーションにおいて重要な役割を果たしてきた大英帝国の影響を受けた国々と、英語は主に国外とコミュニケーションをとるための手段として使用されてきた国々との間に明らかな差が見られます。

後述する1つ目のグループに属する国々では、英語は社会階級の指標であると同時に制度上の基準でもあります。第二のグループに属する国々では、英語の役割の発展にともなう、英語に対するポリシーや考え方が変化してきました。

### 歴史と英語の関連性

香港、インド、マレーシア、パキスタン、フィリピン、シンガポールは、全て英国との歴史的な関係を持つ国々です。このような歴史的背景から、政府が使用する言語の一つとして英語が頻繁に使用され、学校では英語による指導が行われており、一部の社会では英語が日常のコミュニケーション手段として使用されています。アジアの他の国と同じく、これらの国々はビジネスや観光産業でも英語を使用しています。これらの国々全てが英語との複雑な関係を持っていますが、アクセント、方言などが社会的および国民的アイデンティティに対して中枢となる役割を果たしています。

予想される通り、英語と歴史的な結びつきのある国々の英語能力は、アジアのその他の国よりも高い傾向があります。シンガポールがアジアで一番高い英語能力を持っており、去年から2.5ポイント近くもスコアが上がりました。シンガポールはランキングを6つ上げ、非常に高い能力グループにランクインしました。

### 国際ビジネスのための英語

カンボジア、中国、インドネシア、日本、韓国、ベトナムでは、英語が貿易、国際ビジネス、製造業で幅広く使用されており、学术界での使用も増えてきています。これらの国々の中には小学校から英語教育が始まる国もありますが、日常生活で英語が頻繁に使用されることはありません。これらの国では、学術や専門的な場面で使用する正式な英語を公立学校で学ぶことができないという考えが蔓延しており、英語塾が普及しています。

アジアの多くの国々では、英語テストのスコアが大学入試、卒業、卒業の就職において重要な役割を果たしています。例えば、中国では英語が必要ではない職種に対しても、企業

が英語試験スコアの最低点数を設けて求人者を選考にかけするなど、大学の英語試験が求人市場に過度の影響を与えています。このような試験の使われ方は熱い議論の対象となっており、地元の言語よりも英語の重要性が増してきていることを問題視する声もあがっています。

### グローバルリーダーとしての中国

最近、習近平国家主席はアフリカ、アジア、ヨーロッパの経済統合推進を目的とした「ワンベルト・ワンロード」構想の下で、65ヶ国におけるインフラ計画に400億米ドルの資金を投入することを誓約しました。中国が世界の経済大国として君臨するに従い、英語能力が中国の国際的成長の鍵となるでしょう。

英会話能力のある人材は、自国に海外からのビジネスを引き付け、自国の企業を世界的に拡大することを可能にします。2015年には、中国の海外直接投資が過去最高を記録し、中国企業は外国企業の買収に記録的な額の資金を投入しており、このまま順調に進むと2016年には2倍以上となる勢いです。少数の中国企業は世界的に事業を展開しています。例えば、Alibabaは現在世界最大の小売業者となり、Huaweiは140ヶ国以上の国々にサービスを提供しています。

EF EPIの分析結果が示すように、成人が高い英語能力を持つ国は、世界中から才能とアイデアを引き出し、イノベーション部門で躍進することができます。中国が科学技術により多額の投資を行い、世界のイノベーションを牽引し、成功するに従い、英語の重要性がさらに高まるでしょう。

### 英語とグローバルツーリズム

カンボジア、インドネシア、ラオス、タイ、ベトナムでは、観光産業とホスピタリティによって英語の役割が明確化されています。これらの国々では、国際的な観光市場が経済の大部分を占めており、競争力を維持するために英語能力のある人材が求められています。特殊化した観光産業やハイエンド向けの観光産業といった新しい形の観光産業でも、医師や看護師など英会話ができる現地の専門家が

必要とされています。このような経済的な見返りが、東南アジアの学校における英語教育の改革、英語教師のより良いトレーニング、成人の継続教育への自由なアクセスを推進する要因となっています。

### アジア人学生の留学

東アジアでは、留学の魅力によって英語の重要性が高まっています。中国本土にある大学の生徒のうち、主に英語を話す国々へ留学する生徒の数が過去十年の間、毎年増え続けています。2015年には、520,000人以上の中国人学生が中国を離れて留学しており、そのうち97%は自費留学です。この流行によって、中国の人材に海外で教育を受けた生徒が加わり、求人者の英語能力の基準を高めています。

過去数年で、海外留学する日本人学生の数は減っています。その結果、2020年までに海外の大学の学士課程に在籍する日本人学生の数を二倍に増やすことを目的とした「トビタテ! 留学 JAPAN」プログラムが発足されています。日本は今年の指標で標準的な能力から低い能力へと能力レベルを落としており、持続可能な英語教育プログラムの実施が進んでいない日本の現状が浮かび上がっています。

### 結果

今年、ラオス、マカオ、フィリピンが初めて参加したことによって、アジアで高まりを見せている英語の幅広い役割について、より明白に把握できるようになりました。どんなに熟練した国であっても、アジアの全ての国が、幅広い分野における英語能力のより高い人材から経済的な恩恵を受けることができます。その目標を達成するためには、これらの国々がお互いから学び、各国がそれぞれの取り組みを計測し、効果が証明された取り組みに則って戦略を調整する必要があります。



# アジア

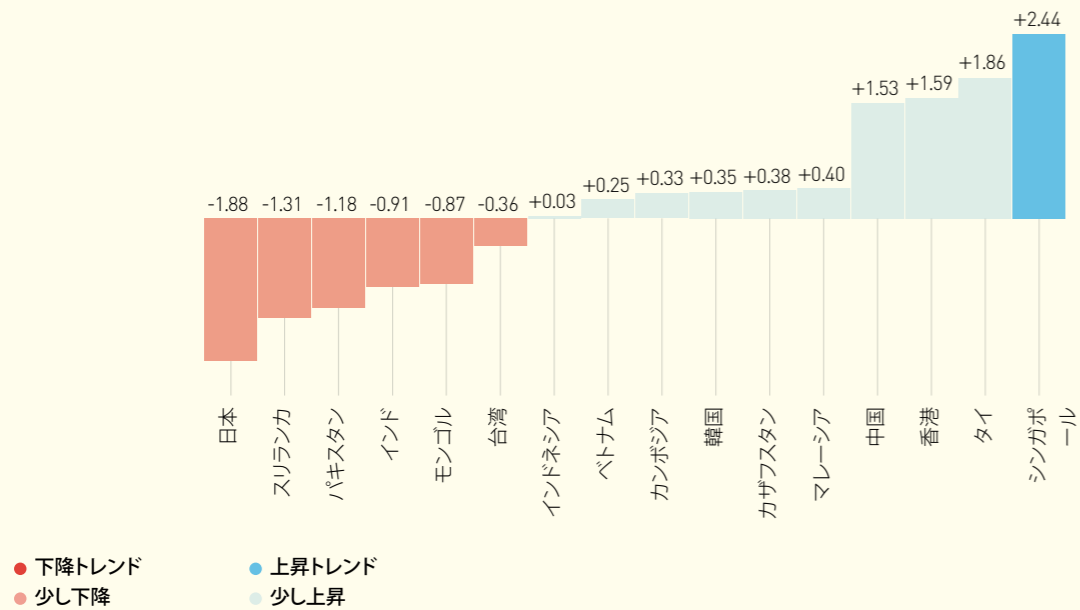
06 シンガポール	63.52	32 インドネシア	52.94	54 カザフスタン	47.42
12 マレーシア	60.70	33 台湾	52.82	56 タイ	47.21
13 フィリピン	60.33	35 日本	51.69	58 スリランカ	46.58
22 インド	57.30	37 マカオ	51.36	66 モンゴル	42.77
27 韓国	54.87	39 中国	50.94	69 カンボジア	39.48
30 香港	54.29	48 パキスタン	48.78	70 ラオス	38.45
31 ベトナム	54.06				

● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い

## EF EPIトレンド

シンガポールはアジアで最も大きな向上を見せ、最も高い能力グループに入ったアジア初の国となりました。中国、香港、タイも注目する進歩を見せていますが、日本はアジア内で今年最大の降下を見せています。

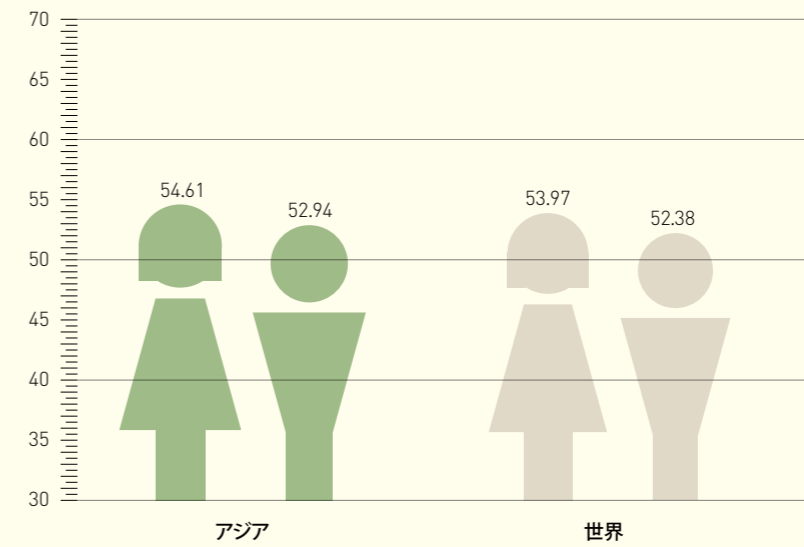
## 昨年からのEF EPIスコア変化



## 男女の差

アジアの女性と男性の平均スコアは世界平均をわずかに上回っており、アジア人女性が2ポイント以上の差をつけてアジア人男性よりもスコアが高くなっています。

## EF EPIスコア

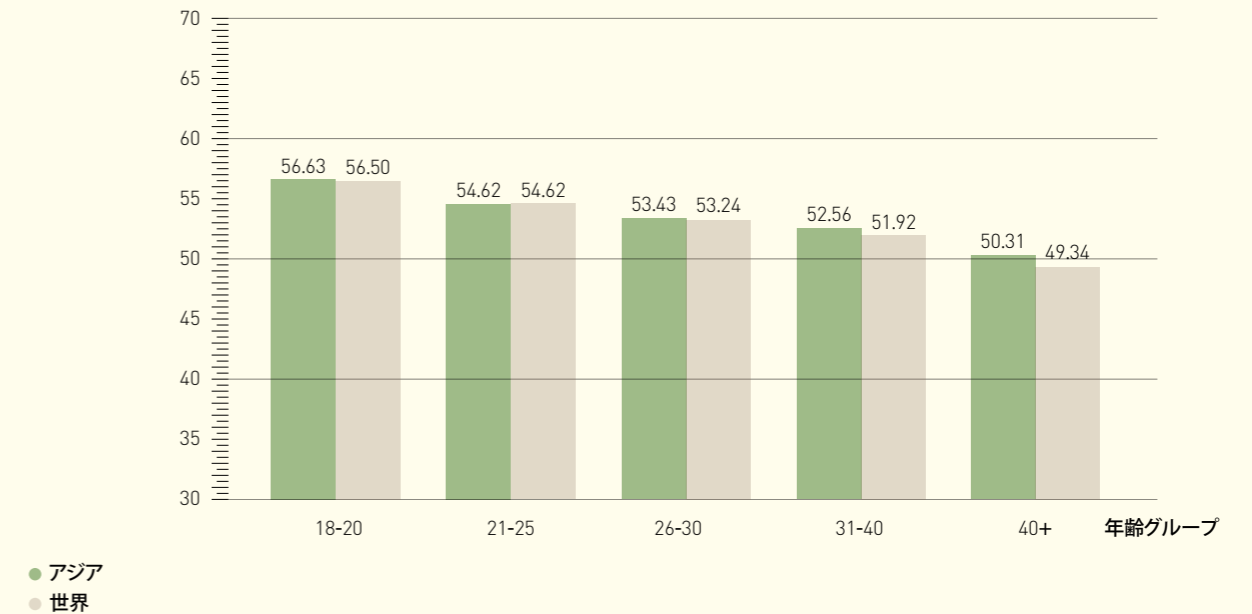


● アジア ● 世界

## 世代間の差

アジアの全ての年齢グループは世界平均にほぼ並んでいます。アジアでは、一番若い年齢グループの英語能力が一番高くなっており、年齢グループが上がるにつれて能力レベルが少しずつ下がっています。この傾向は、世界平均の傾向と同じく、教育指導方法が改善されていることを示唆しており、今後も成人の英語能力の向上が予測されます。

## EF EPIスコア



# 中南米



## 中南米が英語レベル向上のために動き出す

中南米の成人の英語能力は低く、多くの国が去年から下降を見せています。今年の指標に参加している中南米 14ヶ国のうち、アルゼンチンとドミニカ共和国の二国を除いた全ての国々が最も低い能力グループとなっています。

### 地域の共通語としてのスペイン語

英語が地域内でのコミュニケーション言語となっているヨーロッパやアジアとは異なり、中南米ではスペイン語が共通言語となっています。地域的な共通言語が存在するため、英語を習得する恩恵が減り、公的な教育システムの低迷とも相まって、高い英語能力へ向けたこの地域の進歩を遅らせる大きな要因となっています。

スペイン語が地域の共通語ではあるものの、多くの中南米諸国が競争の激しいグローバル経済における英語能力のある人材の価値を認識しています。これらの国々では、英語能力の向上を目的とした学校の改革や教師トレーニングプログラムへの投資が現在行われています。

### アルゼンチンが首位を守る

アルゼンチンは現在までのところ中南米で最も英語能力が高い国となっており。一般的に、アルゼンチンの英語教師は公立学校で教鞭をとるために 5 年間の大学院課程を卒業しなければならないため、高い技能を持っています。2006 年に採択された最新の教育国内法では、アルゼンチン政府によって英語が公立学校の 4 年生から 12 年生に対して義務教育化されました。

近年、南米南部共同市場の加盟国が経済的に低迷しており、南米 5ヶ国による政治的および経済的合意によって、アルゼンチンは周辺諸国を超えてより多様性のある貿易ネットワークを探し求めるようになっています。ブエノスアイレスの前知事である Daniel Scioli は、国際貿易におけるアルゼンチンの立ち位置を強化する方法として英語教育を支援しています。

### ブラジルとメキシコは留学に集中

南米で最も人口の多いブラジルとメキシコの 2ヶ国では、何百人、何千人もの生徒を英語を使用する国々へ送り出し、短期プログラムや学位課程プログラムに参加させることに集中しています。

米国との地理的な近さや結び付きを活用する取り組みとして、メキシコ政府は「プロジェクト100,000」を昨年立ち上げました。2018 年までに、このプログラムによって 100,000 人のメキシコ人学生を米国での短期集中英語コ

ースに参加させる計画です。そして、それと引き換えに、米国は 2018 年までに 50,000 人のアメリカ人学生をメキシコに留学させることを約束しています。これらの二国間による政策は、国境を挟んだ両国の言語能力の強化を目的としています。

ブラジル教育省は、大学を卒業した生徒が英語を使う国々の大学院で勉強できるよう準備するため、English Without Borders (国境なき英語) プログラムを 2013 年に作成しました。プログラム開始以降、国境なき英語プログラムはブラジル国内全域にある数百もの学校や大学から何千人もの生徒たちの試験と訓練を行っています。

さらに、ブラジルは 2016 年リオデジャネイロオリンピック開催の準備を利用して、英語学習のやる気を高めています。教育省と観光産業省は様々な国民の属性に合わせて、複数の英語およびスペイン語トレーニングプログラムを開始しています。

### 教師トレーニングを活用する国々

この地域における英語教育改革政策のほとんどが、現地の英語教師をトレーニングするためのプログラムを含んでいます。政府は教師の専門的な成長のために投資をすることが、数世代に渡って生徒の英語能力を向上することに繋がると信じています。当社のリサーチでもこの考えが支持されており、教師トレーニングへの投資が長期にわたって英語能力を向上させるために最も効果的な方法の一つであることが常に示されています。

エクアドルの「ゴー・ティーチャー」奨学金プログラムとパナマの「バイリンガルプログラム」では、毎年何百人もの自国の教師が英語を使用する国々へ留学し、言語と教育法のトレーニングを受けています。パナマの「バイリンガルプログラム」は国内における英語教師のトレーニングや小学生、中高生のための英語補習レッスンにも出資しています。

コロンビアでは、ファン・マヌエル・サントス大統領が 2014 年 7 月に、政府が今後 10 年間にわたり、中上級レベルの英語能力を持つ大学卒業の人数を増やすため、6億9千万米ドルの投資を行うことを発表しました。この予算の一部を使って、国内の 12,000 人の英語教師のトレーニングも行われる予定です。

### ウルグアイは外国人教師と微笑む

2009 年に、ウルグアイは「PLAN CEIBAL」計画を通して、全ての生徒と教師にノート型パソコンを与える世界初の国となり、2 年未満で 400,000 台以上の端末を配布しています。さらに、「PLAN CEIBAL」ではほぼ全ての学校がインターネットに接続されており、教師が電子学習教材のメリットを活用できるようになっています。

ウルグアイの小学生と外国人英語教師を結び付けるために、ウルグアイ政府は国内中の学校にビデオ会議技術を展開させました。この「Ceibal en Inglés」と呼ばれるプロジェクトは、ウルグアイの 90% 以上の小学校に、主にフィリピンなどの海外から英語教師をリモートで招き入れています。生徒と教師は自主勉強のためのオンライン英語学習教材へのアクセスも提供されています。

### 結果

全体的に、中南米の英語能力は低く、向上の余地が多く残されています。この地域に含まれるほぼ全ての国々で、英語教育の拡大や全体的な見直しを行う野心的なプログラムが開始されています。どの戦略やアプローチが最も効果を出すことができるかは今後の結果で明らかになりますが、これらの国々で英語能力を向上する必要性が認識されていることは注目に値します。よく訓練された英語会話能力のある人々の大きな集団が人材に加わることが、中南米がグローバル市場との統合を続けていく上で重要な鍵となります。



# 中南米

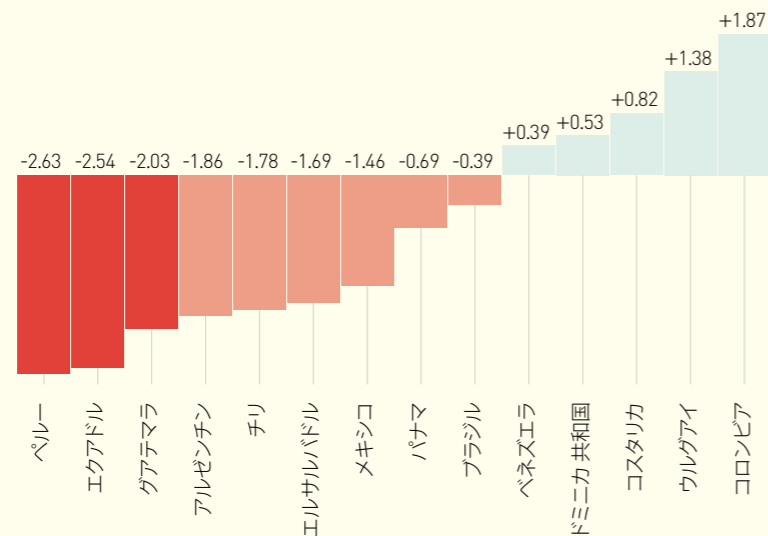
19 アルゼンチン	58.40	45 ペルー	49.83
23 ドミニカ共和国	57.24	47 エクアドル	49.13
36 ウルグアイ	51.63	49 コロンビア	48.41
38 コスタリカ	51.35	50 パナマ	48.08
40 ブラジル	50.66	53 グアテマラ	47.64
42 チリ	50.10	60 ベネズエラ	46.53
43 メキシコ	49.88	63 エルサルバドル	43.83

● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い

## EF EPIトレンド

わずかな下降ではありますが、中南米は世界の全地域の中で唯一、去年より平均スコアが下がった地域です。エクアドル、グアテマラ、ペルーは最も大きな下げ幅を見せており、コロンビア、ウルグアイは少し上昇しています。

## 昨年からのEF EPIスコア変化

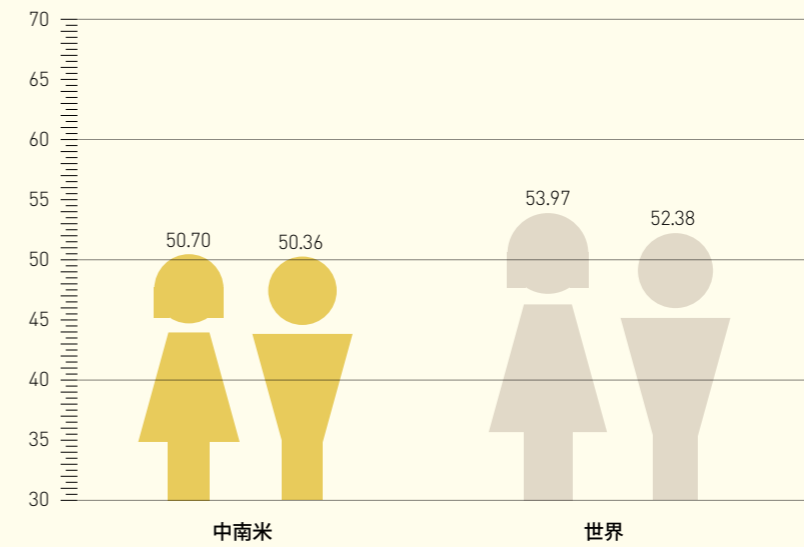


● 下降トレンド ● 上昇トレンド  
● 少し下降 ● 少し上昇

## 男女の差

中南米の男女共に平均スコアが世界平均を下回っています。女性は男性より高くなっていますが、男女差の開きは全地域の中で最も小さくなっています。

## EF EPIスコア

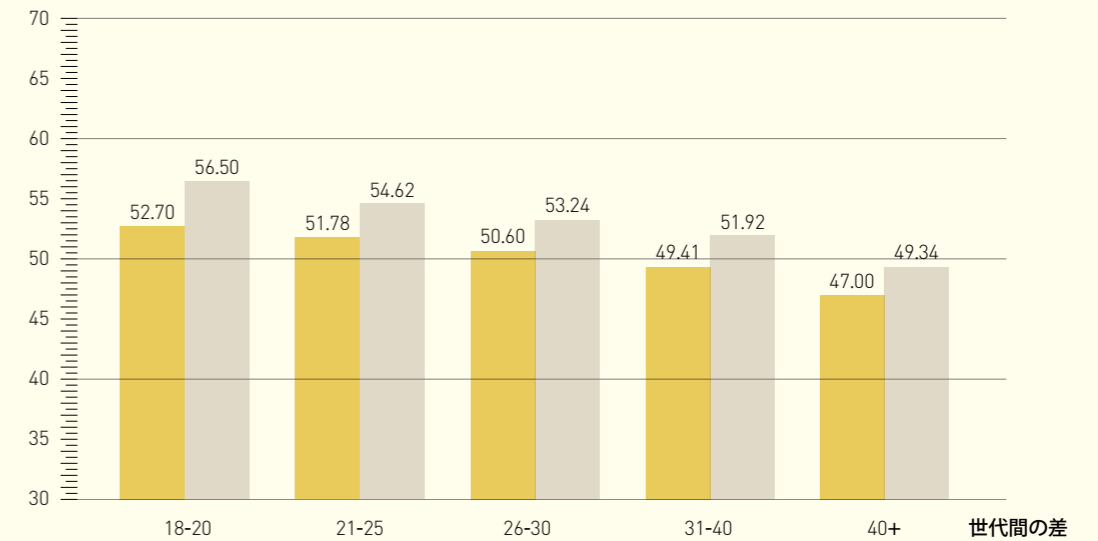


● 中南米 ● 世界

## 世代間の差

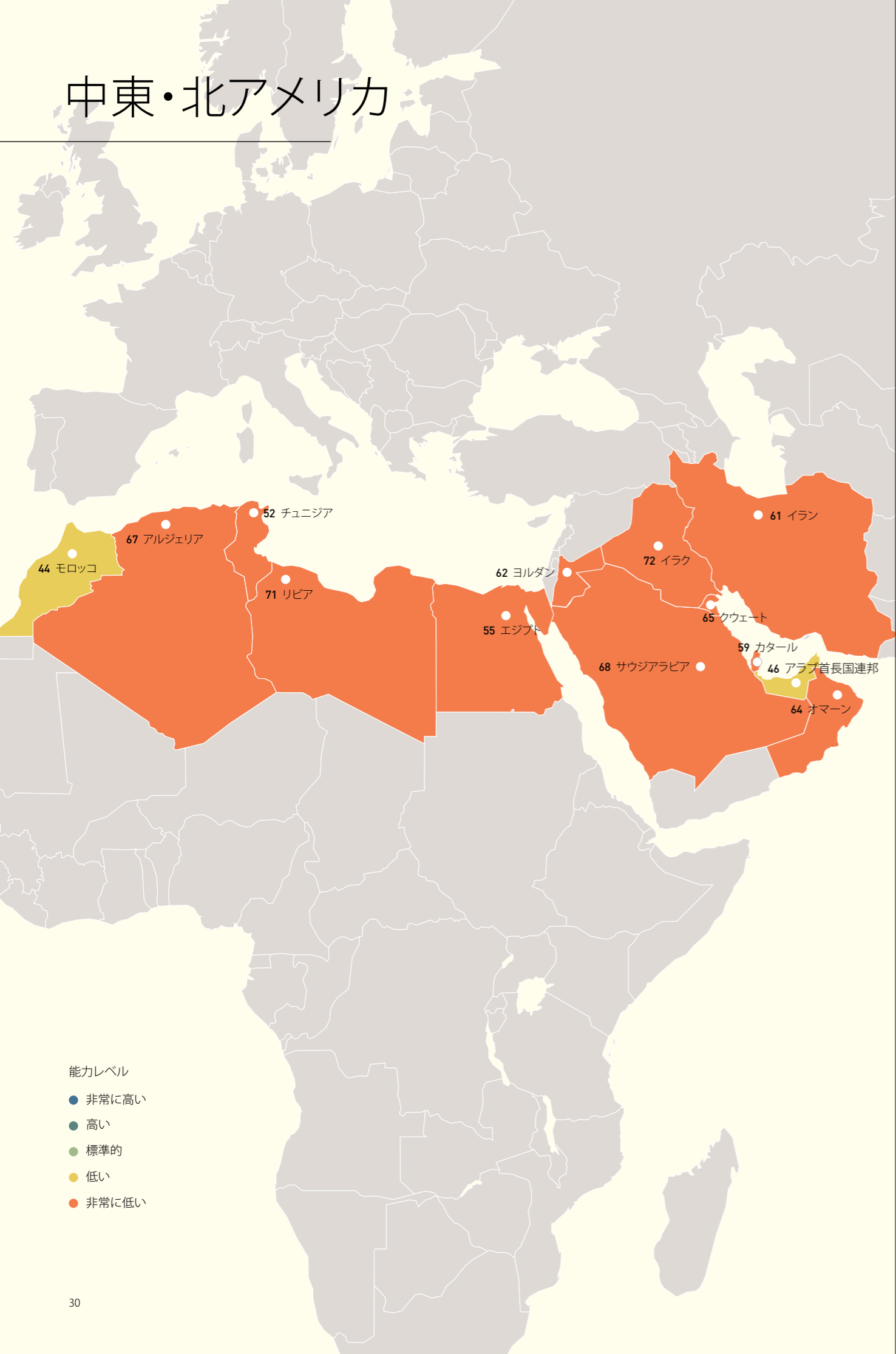
中南米の全ての年代グループにおいて、平均スコアが世界平均を下回っています。中南米では、キャリア中堅世代の社会人よりも大きな下げ幅で、若年層の成人が同世代の世界平均を大幅に下回っており、英語教育の低迷を示唆しています。この地域の言語教育政策では、このような若年層の成人の英語レベルの底上げが必要になるでしょう。

## EF EPIスコア



● 中南米 ● 世界

# 中東・北アメリカ



- 能力レベル
- 非常に高い
  - 高い
  - 標準的
  - 低い
  - 非常に低い

## MENA 諸国は英語能力の底上げに苦戦

中東・北アフリカの英語能力は世界最低レベルで、全体的な能力レベルはほんの少数の国々でしか向上していません。モロッコとアラブ首長国連邦を除く、この地域に含まれる全ての国が最も低い能力グループとなっています。

### 架け橋としての英語

植民地時代から、ヨーロッパとアジアが交差するこの地域では国際貿易と海外支援において英語が重要な機能を果たしてきました。MENA 地域では、貿易、外交、他国軍との軍事協力、技術や専門知識の国境を超えた交換などの主要言語として、英語が現在使用されています。この地域では、言語や文化的な壁によって分割されたグループ間で増え続ける対話を容易にする役割も英語が果たしています。

過去の世代では、特にアラブの富裕層における英語の役割が大きく変化してきました。上流階級の人々が国内または海外の英語学校で学ぶ沿岸地域では、英語が特権を持つ第二言語から、第一言語へと変化しており、アラビア語識字能力が犠牲となっている場合もあるほどです。多くの湾岸諸国の英語大学プログラムには地元の学生が含まれていますが、現地の生徒のアラビア語の読み書きやプロフェッショナルなスキルも英語と同様に成長させる必要があります。

### 英語を西洋文化から切り離す

サウジアラビアやイエメンのような社会的に保守的な国々では、西洋文化との関連を理由として英語が拒絶されることが推測されますが、そのような予想に反して、世論調査では英語が国際的コミュニケーションの必須ツールとして広く受け入れられていることが常に示されています。英語をこのように実用的な観点から見ることで、英語が心から受け入れられるようになっています。

サウジアラビアでは、英語は学校で教えられる唯一の外国語で、大学レベルのコースの多くで指導言語となっています。しかしながら、王国内には、文化的に適切な英語教材に対する高い需要があります。英国または米国の標準的な教材は度々不適切とみなされています。

サウジアラビアの教育制度は MENA 地域の多くの国々と同様、学生の試験準備を目的とした機械的学習と暗記が主体となっています。早い段階から英語指導が始まりますが、このような効果のない指導方法のせいで、サウ

ジアラビアで大学に進学した生徒のほとんどが学部の勉強を始める前に英語の補修コースを受ける必要があります。サウジアラビア国内の企業は学校の低品質な教育を補うために巨額のトレーニング予算を支出しています。英語はサウジアラビア国営石油会社の運用言語であり、王国内の数多くの専門職で必須とされていますが、このような英語スキルの高い需要にもかかわらず、教育システムは英語を効果的に教えていません。経済的に余裕のあるサウジアラビア人学生の多くが英語を向上させるために留学しています。

### マグレブ諸国が英語を容認

フランスとの貿易や移民の歴史的な繋がりがあってもにもかかわらず、マグレブ内の国々は英語を人材の現代化およびヨーロッパへのアクセスをより深めるための方法と考えています。英語能力レベルは依然として非常に低いままですが、英語に対するやる気が高まりを見せています。

モロッコではこのような傾向が顕著に表れており、毎年多くの英語学校が開校され、高等教育システムの言語をフランス語から英語に切り替える計画があります。植民地時代にエリート階級が使用していた言語であるため、フランス語は多くのモロッコ人にとって否定的な意味合いを持っています。その一方で英語には、モロッコにおける歴史的なつながりが一切ありません。全ての社会階級に対して開かれた平等な機会を象徴する言語として捉えられています。

大宇財閥やその他のアジア製造業者が国内に進出したことで、英語を習得する経済的価値が大幅に高まっています。モロッコは今年の指標で非常に低い英語能力グループから抜け出ており、これまでの英語に対する熱意からすれば、今後も向上を続けることが推測されます。

### 構造的な問題

MENA 諸国の効果的な教育改革を妨げる大きな問題の一つが労働市場の構造にあります。多くの国々で労働人口の半数ほどが公営企業に雇用されており、この地域以外のほとんどの経済圏よりもはるかに高い割合となっ

ています。終身雇用を保証し、民間企業より給与も高いため、公営企業の仕事は他のどの仕事よりも魅力的であるため、英語を学ぶやる気をそぐ結果となっています。

その規模にもかかわらず、MENA 地域の公的セクターの構造は不十分で、大学システムが輩出する資格を持った卒業生をすべて受け入れることができないため、資格のある若年層での失業率が異常に高くなっています。そのような労働市場の不具合は、若者の学術に対するやる気を損なっています。

このような経済的困難は、MENA 地域の人口に占める若者の人数の高さによってさらに深刻になっています。MENA 諸国の人口の約 20% が 15~25 歳で、45% が 15 歳未満です。過去数年で出生率は下がりましたが、学校に在籍している若い年代のグループが MENA 地域の教育システムを圧迫しています。大人数の若者がいることは、良い契機でもあります。学校が膨大な人数の生徒に効果的に英語を教えることができれば、この若年層が成人となるにつれ、この地域の成人の能力レベル平均はすぐに向上するでしょう。しかしながら、現在のところそのような変化が起きていることを示す証拠はほとんどありません。

### 結果

MENA 地域全体として、教育システムの改革は必要ですが、英語であっても、その他の分野であっても、教育の目標となる経済的な動機が伴っていなければ十分ではありません。経済改革によって民間企業が勢いを得るまで、この地域では世界のどの地域よりも英語を学ぶことによる見返りが少ないままになるでしょう。



# 中東・北アメリカ

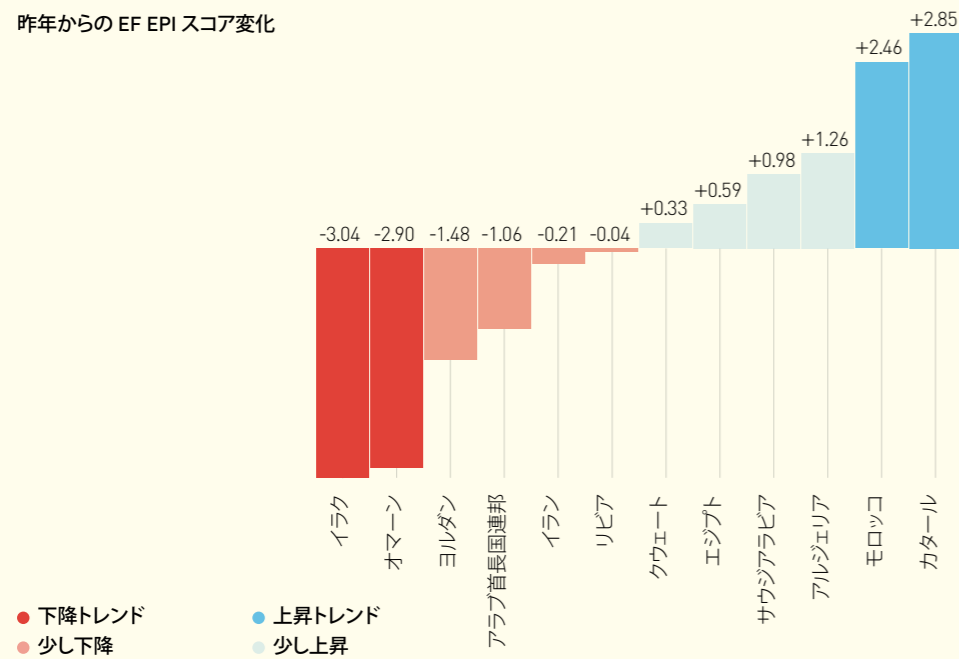
44	モロッコ	49.86	64	オマーン	43.44
46	アラブ首長国連邦	49.81	65	クウェート	42.98
52	チュニジア	47.70	67	アルジェリア	41.60
55	エジプト	47.32	68	サウジアラビア	40.91
59	カタール	46.57	71	リビア	37.82
61	イラン	46.38	72	イラク	37.65
62	ヨルダン	45.85			

● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い

## EF EPIトレンド

MENA 諸国は昨年から、どの地域よりも大きなスコア変動を見せています。モロッコとカタールが注目に値する向上を見せていますが、この2ヶ国を除く全ての MENA 諸国が最も低い能力グループとなっています。イラクおよびオマーンのスコアが MENA 諸国の中で一番の下げ幅を見せています。

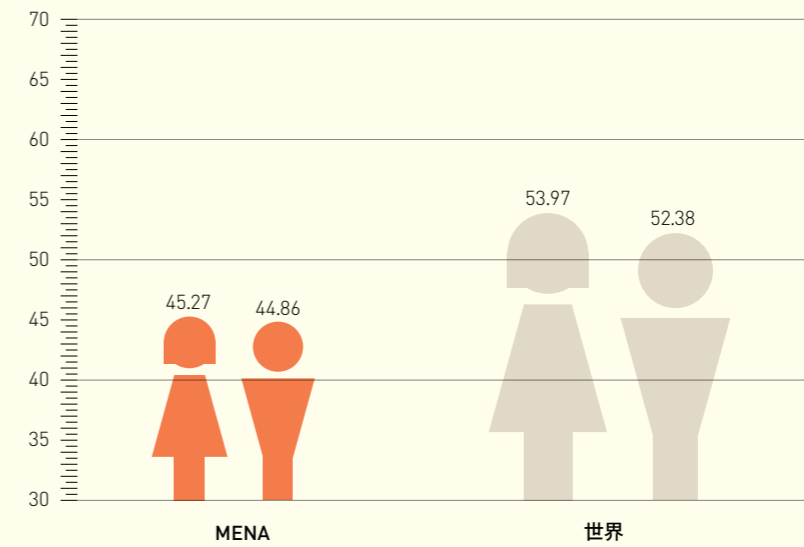
### 昨年からの EF EPI スコア変化



## 男女の差

MENA 地域の平均スコアは男女共に世界平均を大きく下回っています。他の3地域と同様、女性が男性よりもわずかに高いスコアとなっています。

### EF EPI スコア

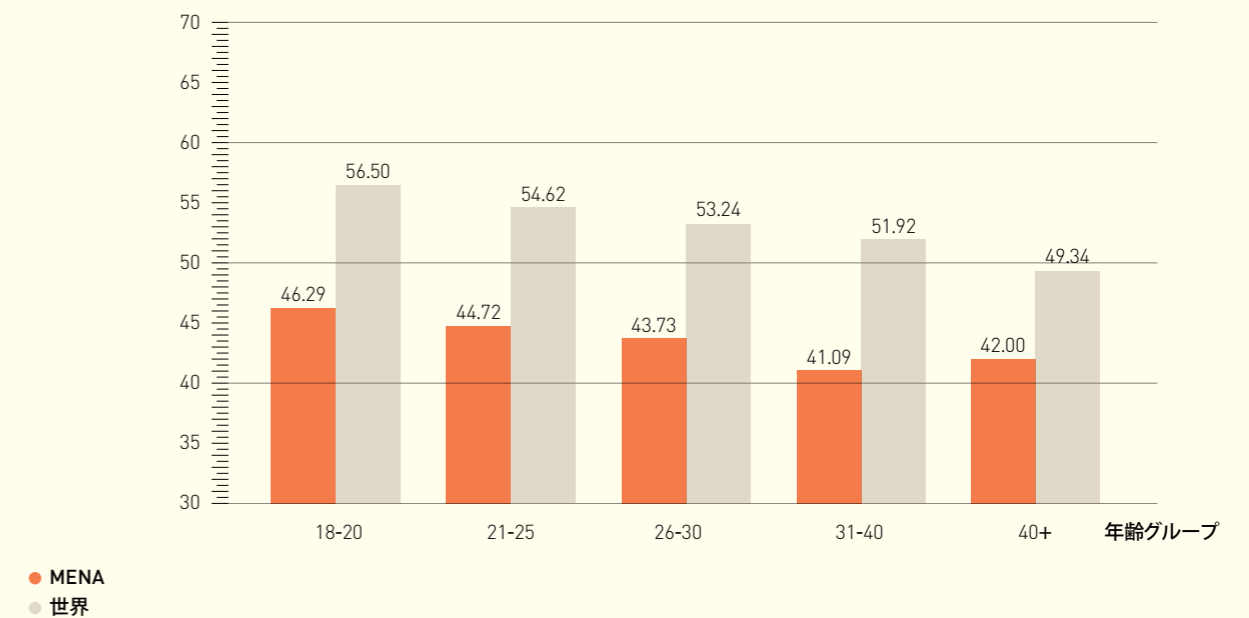


● MENA ● 世界

## 世代間の差

全ての年代グループが世界平均を大幅に下回っています。31~40歳の年齢グループの英語能力が最も低くなっており、世界トレンドと異なった傾向を見せています。40歳以上の成人は独学または職場など、学校以外の場面で英語能力を身に付けていることがほとんどなので、このトレンドの違いは非常に驚くべき差と言えます。

### EF EPI スコア



## 結論

英語スキルは現在のグローバル経済における基本的要件です。言語の習得は難しく、高価ですが、親や専門家たちは英語トレーニングへ投資する価値を理解しており、企業や政府も人材の英語能力が21世紀における長期的な競争力に繋がることを認識しています。

このEF EPI第6版では、良質な英語教育を膨大な数の学生に提供するための各国が直面している困難や、それに対して各国が採用している様々なアプローチと戦略について考察してきました。英語がイノベーション推進で果たす役割や、テクノロジーを活用することでより効果的でパーソナライズされた学習がもたらす好機についても議論しました。

当社の調査から見てきた、効果的な英語教育を行うための最も優れた戦略は次の通りです：

- **より大きな改革の枠組みの中で英語を考慮に入れています。** 教育達成レベルが低く格差の大きな国々では、全ての学生が最低でも10年間は英語指導を含んだ良質の公教育を受けられるようにすることで、成人の英語能力は必ず向上します。
- **多言語使用の文化を育んでいます。** より多くの家族、学校、政府が「誰でも1つ以上の言語を話せるのが当然」という意識を育むことで、より多くの子供たちにとって多言語使用が当たり前となっていくでしょう。こうした多言語使用の文化は定義することは難しいですが、簡単に認識することができます。北欧や英語能力の高い国々を訪問者した外国人はすぐに気付くことができます。

- **始めて英語を学ぶ日から実用的なコミュニケーションスキルに重点を置いています。** 言語教育の究極の目的とは、その言語を使って他の人々とコミュニケーションをとる能力を身に着けることです。従って、効果的な英語指導は文法の正しさやネイティブスピーカーのアクセントを真似ることよりも、コミュニケーションを優先させています。多くの成人が、流暢さよりも文法に重きを置いた従来の学習環境で教育を受けており、リスニングや会話の追加練習を必要としています。

- **効果的な英語能力評価ツールを發展させています。** 状況、ニーズ、学習者の目的が異なれば、評価方法も違ってきます。教育法に全面的な影響を与える重要な試験の見直しは特に重要です。成人学習者が無料でアクセスできる高品質の標準化テストを作成することは、継続教育におけるオープン・アクセス・トレンドの流れにも沿っています。

- **教師のトレーニングに投資しています。** 適切に策定され、実行されれば、教師志願者に対するトレーニングプログラムや、常勤講師の専門的知識の開発は賢い投資です。より高い技能を持った教師は何世代にも渡って生徒に良い影響を与えます。

- **職場や民間機関が成人トレーニングを支援しています。** 多くのケースで、成人の学習者は職場で英語のネイティブスピーカーと頻繁に交流する機会を持っており、向上意識が高く、スキル向上のための投資を惜しみません。成人の英語トレーニングを英語教育の議論から外すことはできません。

- **テクノロジーとオンライン学習ツールを活用しています。** 成人の英語学習者にとって、従来の教室方式に替わる学習形式は特に有益です。大規模公開オンライン講座、ビデオ通話家庭教師、オンライン会話クラスなどは社会人に柔軟性のより高い学習機会を提供しています。独学アプリやその他のモバイル商品によって、誰でも外出先から基本的な文法、語彙、リスニングを学ぶことが可能です。

英語能力のある人材との未来に向けて、国家や企業の舵を取るには、多大な努力と投資が必要です。当社による成人の英語能力トレンドのデータと分析を共有することで、世界の英語教育についての議論に貢献できることを願っています。





過去からの英語能力の変化を見てみましょう。

EF EPI スコア変化は、各国の EF EPI 第 5 版と第 6 版における差を示しています。2 ポイント以上の変化(上昇または下降)は、一英語能力の大きな移り変わりを示唆しています。EF EPI 第 5 版は 2014 年に収集された試験データを使用しており、第 6 版は 2015 年のデータを使用しています。

国	EF EPI 第 5 版	EF EPI 第 6 版	スコア変化
アルジェリア	40.34	41.60	+1.26
アルゼンチン	60.26	58.40	-1.86
オーストリア	61.97	62.13	+0.16
アゼルバイジャン	46.12	46.90	+0.78
ベルギー	59.13	60.90	+1.77
ボスニア・ヘルツェゴビナ	—	56.17	新
ブラジル	51.05	50.66	-0.39
ブルガリア	—	56.79	新
カンボジア	39.15	39.48	+0.33
チリ	51.88	50.10	-1.78
中国	49.41	50.94	+1.53
コロンビア	46.54	48.41	+1.87
コスタリカ	50.53	51.35	+0.82
チェコ共和国	59.01	59.09	+0.08
デンマーク	70.05	71.15	+1.10
ドミニカ共和国	56.71	57.24	+0.53
エクアドル	51.67	49.13	-2.54
エジプト	46.73	47.32	+0.59
エルサルバドル	45.52	43.83	-1.69
フィンランド	65.32	66.61	+1.29
フランス	51.84	54.33	+2.49
ドイツ	61.83	61.58	-0.25
グアテマラ	49.67	47.64	-2.03
香港	52.70	54.29	+1.59
ハンガリー	57.90	58.72	+0.82
インド	58.21	57.30	-0.91
インドネシア	52.91	52.94	+0.03
イラン	46.59	46.38	-0.21
イラク	40.69	37.65	-3.04
イタリア	54.02	54.63	+0.61
日本	53.57	51.69	-1.88
ヨルダン	47.33	45.85	-1.48
カザフスタン	47.04	47.42	+0.38
クウェート	42.65	42.98	+0.33
ラオス	—	38.45	新
リビア	37.86	37.82	-0.04

国	EF EPI 第 5 版	EF EPI 第 6 版	スコア変化
ルクセンブルグ	63.45	63.20	-0.25
マカオ	—	51.36	新
マレーシア	60.30	60.70	+0.40
メキシコ	51.34	49.88	-1.46
モンゴル	43.64	42.77	-0.87
モロッコ	47.40	49.86	+2.46
オランダ	70.58	72.16	+1.58
ノルウェー	67.83	68.54	+0.71
オマーン	46.34	43.44	-2.90
パキスタン	49.96	48.78	-1.18
パナマ	48.77	48.08	-0.69
ペルー	52.46	49.83	-2.63
フィリピン	—	60.33	新
ポーランド	62.95	61.49	-1.46
ポルトガル	60.61	59.68	-0.93
カタール	43.72	46.57	+2.85
ルーマニア	59.69	58.14	-1.55
ロシア	51.59	52.32	+0.73
サウジアラビア	39.93	40.91	+0.98
セルビア	—	59.07	新
シンガポール	61.08	63.52	+2.44
スロバキア	56.34	57.34	+1.00
韓国	54.52	54.87	+0.35
スペイン	56.80	56.66	-0.14
スリランカ	47.89	46.58	-1.31
スウェーデン	70.94	70.81	-0.13
スイス	58.43	60.17	+1.74
台湾	53.18	52.82	-0.36
タイ	45.35	47.21	+1.86
チュニジア	—	47.70	新
トルコ	47.62	47.89	+0.27
ウクライナ	52.61	50.62	-1.99
アラブ首長国連邦	50.87	49.81	-1.06
ウルグアイ	50.25	51.63	+1.38
ベネズエラ	46.14	46.53	+0.39
ベトナム	53.81	54.06	+0.25



熟練者	C2	聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構成できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文を理解することができ、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文を作ることができる。
自立した言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑な文の主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細な文を作ることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
	B1	仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈絡のある文を作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べるができる。
基礎段階の言語使用者	A2	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。
	A1	ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。

ヨーロッパ評議会の言葉  
EF EPI の全ての版はレベル A2 ~ B2 の範囲に入っている。

Andrade, Maureen Snow. (2016). Global Expansion and English Language Learning. *New Directions for Higher Education*, 173, 75-85.

British Council. (2015). *English in Latin America: an Examination of Policy and Priorities in Seven Countries* (Rep.), Retrieved from <https://ei.britishcouncil.org/english-in-latin-america>

Bush, Michael D. (2008). Computer-assisted language learning: From vision to reality? *CALICO Journal*, 25(3), 443-470.

Central Intelligence Agency. (2016). *The World Factbook*. Retrieved from <https://www.cia.gov/library/publications/resources/the-world-factbook/>

Council of Europe. (2015, October 28). Language Education Policy Profiles. Retrieved from [http://www.coe.int/t/dg4/linguistic/Profils1\\_EN.asp#TopOfPage](http://www.coe.int/t/dg4/linguistic/Profils1_EN.asp#TopOfPage)

English speaking in Morocco on the increase - BBC News. [2013, September 9]. Retrieved from <http://www.bbc.com/news/business-24017596>

European Commission/EACEA/Eurydice Facts and Figures. (2015). *National Sheets on Education Budgets in Europe 2015*. Luxembourg: Publications Office of the European Union.

Florida, R., Mellander, C., & King, K. (2015). *The Global Creativity Index 2015* (Rep.). Toronto, ON: University of Toronto.

Grgurovici, Maja et al. (2013). A meta-analysis of effectiveness studies on computer technology-supported language learning. *ReCALL*, 25(2), 165-198.

Gunnarsson, Britt-Louise. (2013). Multilingualism in the Workplace. *Annual Review of Applied Linguistics*, 33, 162-189.

Guttenplan, D.D. (2012, June 11). Battling to Preserve Arabic From English's Onslaught. *The New York Times*, Retrieved from [http://www.nytimes.com/2012/06/11/world/middleeast/11iht-educlde11.html?\\_r=1](http://www.nytimes.com/2012/06/11/world/middleeast/11iht-educlde11.html?_r=1)

Lauder, Allan. (2008). The status and function of English in Indonesia: A review of Key Factors. *Makara Seri Sosial Humaniora*, 12(1), 9-20.

McCormick, Christopher. (2015). Countries with Better English Have Better Economies. *Harvard Business Review*, Retrieved from <https://hbr.org/2013/11/countries-with-better-english-have-better-economies/>

Means, Barbara et al. (2013). The effectiveness of online and blended learning: A meta-analysis of the empirical literature. *Teachers College Record*, 115(3), 1-47.

Organization for Economic Co-operation and Development. (2015). *Education at a Glance 2015: OECD Indicators*, OECD Publishing, Paris. Retrieved from <http://dx.doi.org/10.1787/eag-2015-en>

Organization for Economic Co-operation and Development. (2014). *PISA 2012 Results in Focus*, Retrieved from <http://www.oecd.org/pisa/keyfindings/pisa-2012-results-overview.pdf>

Pan, Yi-Ching & Newfields, Tim. (2012). Tertiary EFL Proficiency Graduation Requirements in Taiwan: A Study of Washback on Learning. *Electronic Journal of Foreign Language Teaching*, 9(1), 108-122.

The World Bank Group. (2016). *World Development Indicators*. Retrieved from <http://data.worldbank.org/data-catalog/world-development-indicators>

United Nations Development Programme. (2015). *Human Development Report 2015: Work for Human Development* (Rep.), Retrieved from <http://report.hdr.undp.org/>

EF EPI のバックナンバーは [www.ef.com/epi](http://www.ef.com/epi) からダウンロードできます。



EF ENGLISH PROFICIENCY INDEX  
第1版 (2011)



EF ENGLISH PROFICIENCY INDEX  
第2版 (2012)



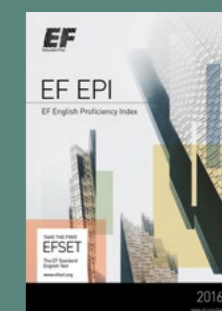
EF ENGLISH PROFICIENCY INDEX  
第3版 (2013)



EF ENGLISH PROFICIENCY INDEX  
第4版 (2014)



EF ENGLISH PROFICIENCY INDEX  
第5版 (2015)



EF ENGLISH PROFICIENCY INDEX  
第6版 (2016)



# EFSET: 言語評価のイノベーション

世界中にいる20億人以上の英語学習者が英語能力試験を受験できるよう、EF英語標準テストは世界初の完全無料英語標準テストとして2年前に開始されました。EFSETは英語能力認定テストは高額で不便であるという常識に挑戦します。

測定可能で柔軟かつ信頼できる英語テストを必要とする個人や機関がEFSETを国際標準テストとして採用しています。EFSETは高額な費用のため大規模な集団受験が適わなかった学校、企業、政府などに特に有益です。

EFSETは適応性のある試験で、試験結果データの証拠に基づいた研究と継続的な精神測定分析に基づいて開発されました。EFは言語評価、大規模試験、精神測定の世界的権威と提携してEFSETを開発しました。EFSETスコアは2種類の相関研究によって、TOEFLやIELTSなどの従来のテストと同様の信頼性があることが確認されています。

初心者から上級者までのあらゆるレベルの学習者に、EFSETをオンライン(www.efset.org)から無料でご利用いただけます。受験者の承諾を得たうえで、匿名化されたEFSET結果がEF EPIの集計に使用されます。

 EF SET

EF STANDARD ENGLISH TEST

EF EPIに参加しましょう

EFSETは **EFSET.ORG** から無料で受験できます

